



令和5年5月20日（土）

第8回近現代部会を開催しました

第8回近現代部会では、全体スケジュールの共有や、編目構成案、執筆要領などについての協議が行われました。

『新編遠野市史 資料編 近現代』は令和7年度の刊行ですが、予算編成は前年度の秋から始まるため、それまでに資料編の仕様を決定する必要があります。さらに今年度中に原稿執筆にとりかかるため、編目の決定と資料選定が重要となることを確認し、今後は委員が調査した内容を発表する調査報告会を行うこととしました。

会議前後の調査では、岩手日報の記事や学校関係の資料を調査したり、綾織町の旧千葉家住宅ゆかりの場所や、佐々木喜善生家から旧土淵村役場周辺までのルートを巡りました。特に小泉委員は、赴任先のアメリカから帰国して初めての近現代部会となり、市内をまわって各町の学校関係施設や名所旧跡などの立地を確認しました。



▲調査の様子（早池峰ふるさと学校）



▲調査の様子（改修工事中の旧千葉家住宅）

Q1 出身地

盛岡市に居住（出身は山形県）

Q2 所属

岩手大学教育学部 教授

Q3 専門分野

日本史教育、日本近現代史。

特に、学校で歴史がどのように教えられてきたか、ということに関心があります。市史では、遠野の教育や文化に関するところを担当します。

Q4 市史に関して今もっとも興味を持っていること

戦前、遠野南部氏が国定教科書に記載されていく経緯を明らかにしたいと考えています（文化運動としても）。史料が乏しいのですが、なんとか掲載できればと考えています。

Q5 その他興味があること

遠野には、何か懐かしいものを感じます。日本の基層に触れ合う、なにものかがあるからかもしれません。そのなにものかが、多くの人を惹きつける、遠野の魅力につながっています。私もその魅力に浸りながら、市史をつくって行きたいと思っています。



編さん委員紹介

今野 日出晴

こんの ひではる

遠野市史編さん委員会 委員
遠野市史編さん近現代部会 部会長



令和5年5月23日(火) / 30(火)

第9回原始・古代・考古 GR 会議および中世・文献 GR 会議を開催しました

5月23日(火)・30日(火)と、相次いで『新編遠野市史 資料編 考古 / 古代・中世』に関わる会議を開催しました。同書は来年3月の発刊を予定しており、両グループとも入稿前の最後の会議となりました。

会議では、資料編本文の組見本や構成について確認したほか、発刊までのスケジュールを共有しました。特に中世グループでは、文献資料と遺跡資料を掲載する予定でしたが、文献資料が当所の想定を上回ったため、遺跡資料は通史編に掲載することになりました。

委員が執筆した原稿は6月中旬に入稿となります。また同時にケースや表紙デザインについても今後編さん委員会で協議される予定です。

その他中世グループでは、鍋倉城や真立館などの追加調査を行いました。今後も引き続き市内の館跡などの調査を行っていく予定です。



▲中世の鍋倉城の大手口を遠望
▼鍋倉城の行燈堀よりも南側を調査



飴飯 かざりめし

資料紹介

飴飯は、元禄年間(1688-1703)頃まで遠野で流行した料理です。宝暦13年(1763)頃に宇夫方広隆によって書かれた『遠野古事記』には、お客様をおもてなしする際に出されたご馳走で、椀に盛ったご飯の上に、花鯉やのり、大根、にんじん、豆腐の皮、青菜、くるみ、陳皮(みかんの皮を乾燥させたもの)などを乗せ、冬は暖かなすまし汁、夏は冷たいすまし汁をかけて食べるとあります。

右の写真は、遠野緑峰高校の3年生が『遠野古事記』の記述や、以前遠野風の丘で提供されていた飾飯のレシピをもとに復活させた飾飯です。彩りよく、地元の暮坪かぶ*を薬味に添えるなどアレンジが加えられています。

*この時期(5月)は暮坪かぶが手に入らないため、ホースラディッシュで代用。

元禄年中の頃迄軽き饗応の馳走ニ飾飯と云食物時行申候、椀え盛たる飯の上え花鯉・打のり・大こん・にんじん皮懸・豆腐の皮ヲ細クせん攪せんに挽キ青菜・くるみ・陳皮など盛(中略)寒冷の時節は暖カなる清汁、夏は冷たる清汁を切ッ立テと云口の有器物え入て出し、飯え請て食する間ニ、引菜の色数は亭主の心次第出ス也(後略)

『遠野古事記』より抜粋



編さん室職員も試食させていただきました。とっても美味でございました！



編集・発行 遠野市民センター市史編さん室

〒028-0515 岩手県遠野市東館町3番9号(遠野市立図書館・博物館内)

TEL:0198-62-2340 FAX:0198-62-5758